



主要諸元：(PREMIUM "Style NOIR" 4WD)

- 全長×全幅×全高／4,725×1,835×1,690mm
- ホイールベース／2,600mm
- トレッド／前：1,560mm 後：1,560mm
- 車両重量／1,630kg
- 最小回転半径／5.6m
- エンジン／1,986cc 直列4気筒 DOHC
- 最高出力／151ps・6,100rpm
- 最大トルク／19.7kg・m：3,800rpm
- JC08 モード燃費／15.2 km/ℓ
- ミッション／CVT
- ブレーキ／前／ベンチレーテッドディスク
後／ディスク
- タイヤサイズ／235/55R18
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／5名
- 車両本体価格／3,521,880円(税込)

ミアム、エレガンスの3グレードがあるほか、プログレスとプレミアムには「メタル&レザーパッケージ」が設けられている。今回の特別仕様車のベースとされているのは2リッターガソリンのプレミアムで、駆動方式はFFと4WDが設定されている。

徹底して黒にこだわり、 独特の価値観を創造

特別仕様の内容を見ていこう。キーワードは「黒」。切削光輝+ブラック塗装の専用18インチアルミホイール、漆黒メッキのフードモール、漆黒メッキのサイドプロテクションモール、スモーク調メッキ加飾されたヘッドランプエクステンションなど、通常メッキが使用されているエクステリアパーツは、黒またはダークな色調に変更され、スポーティーかつ大人の香りを漂わせている。外装カラーは3色で、ホワイトパールクリスタルシャインも選択できるが、他の2色はスパークリングブラックパールクリスタルシャインと、特別設定色のブラックマイカである。

インテリアも徹底して黒い。センタークラスターのサイド部は通常メッキだが、ダークシルバークラッシュ塗装され、ニードルにはシルバーステッチ。ステアリングも同様に、メッキ部がダークシルバークラッシュ塗装で、本革部分にはシルバーステッチ。このほか、ドアトリム、エアコン吹き出し口ベゼル、助手席前のインストルメントパネル

などにもダークシルバークラッシュ塗装は施されている。さらにシフトパネルやウインドウスイッチ周りがピアノブラック加飾になるなど、とにかく黒一色で統一されている。スポーティーであり、シックであり、大人のムードでもあるが、「ちょい悪オヤジ」的な方向性も垣間見える。「ファミリーで使うクルマではあるけれど、こだわりの欲しい」という方には強烈に響くのではないだろうか。

自動運転を見据えた戦略と 安全機能の実用化

安全面ではメーカーオプションであるインテリジェントクリアランスソナーが標準化されている。車庫入れなどの際、静止物の接近を表示とブザーで知らせられるクリアランスソナー機能をベースに、前後方向に静止物を検知している状態での発進時、エンジン出力を制御し、さらに距離が縮まると自動ブレーキが作動するシステムをプラス。クリーピングなどアクセルが踏まれていない低速走行時にも対応しており、うっかりミスを未然に防いでくれる。

Style NOIRのベースになっている2リッターガソリンのプレミアムには、トヨタの予防安全総合技術TOYOTA Safety Senseがほとんど搭載されている。ミリ波レーダーと単眼カメラによるプリクラッシュセーフティ、レーンディバイダーチャイアラート、アダプティブハイビームシステム



高級SUVの先駆者ハリアーに 新しい魅力をプラス TOYOTA HARRIER

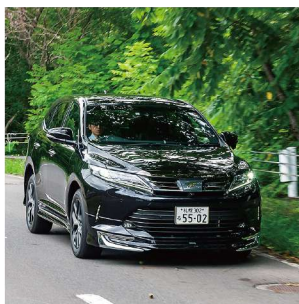
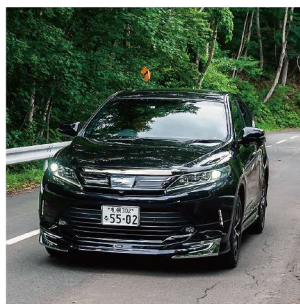
■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=札幌トヨペット クルマックスコトニ店 Tel(011)631-3131

れた。エクステリア/インテリア、そしてメーカーオプションである安全機能の標準化などが主なポイントである。

まずハリアーの歴史を簡単に振り返っておきたい。「高級サルーンの乗り心地と快適性を兼ね備えたクロスオーバーSUV」をテーマに、初代モデルが登場したのは'97年。このモデルが世界にもたらした影響は大きく、これ以降、多くのメーカーが高級SUVモデルを開発・発売することになる。

2代目の登場は'03年。基本コンセプトはそのままに、世界初ブリクラッシュセーフティシステムをオプション設定するなど、新技術も惜しみなく投入された。さらに'05年にはハイブリッドも追加。こちらは3・3リッターV6エンジンに、フロントモーター・リアモーターを組み合わせた、システム合計出力272PSを発揮したスポーティなモデルであった。

現行の3代目は'13年の登場。初代から2代目へと続いた大型のヘッドライトは、鋭い横長タイプに変更され、全体的なシルエットも鋭角的なラインが増えてグッとスタイリッシュになった。2代目でHVがハリアーハイブリッドとして独立していたが、これを統合してラインアップに追加。過去最大で3・5リッターV6を積んだこともあるエンジンはダウンサイジングされた。現行ハリアーのラインアップは2リッターガソリンターボ(FE/4WD)、2・5リッターハイブリッド(4WD)、2リッターガソリン(FE/4WD)。各々にプログレス、プレ



ディーラーメッセージ

札幌トヨペット クルマックススコニ店
営業グループ係長
庄司 和哉さん

スタイリッシュなデザインと上質な走行性能、最新の安全性能を併せ持つハリアーは、幅広い年代層の方々にご支持をいただいております。今回設定された特別仕様車 PREMIUM "Style NOIR" は、内外装ともに黒を基本とした加飾が施され、大人の質感が強調されています。他とは違うハリアーをお探しの方には是非お勧めしたい一台です。冬道でも安心の4WD、事故を未然に防ぎ、万一の際にも被害をできるだけ軽減する各種装備も充実しております。是非現車をお確かめください。



インプレッション — 乗り心地とコーナリング性能に 優れる、万能SUV —

などである。折に触れて書いていることだが、こうした安全装備の延長線上には自動運転がある。前述の通り、ハリアーは'03年の2代目で、乗用車として世界初ブリクラッシュセーフティシステムをオプション設定している。今や国内のみならず世界各国の自動車ミリ波レーダーやカメラを用いた安全システムを導入していることを考え合わせると、10年先、20年先を見据えたトヨタの戦略と最新技術にはまったく驚かされる。

撮影地へ向けて走り出すと、カタログ値以上のスムーズな発進に驚かされる。2リッターNAエンジンは最高出力151ps、最大トルク19・7kgm。1、600kgを超える車重に比べ非力のように思えるが、実用上は全く心配なし。流れに乗り、静かに走ってくれる。山道にさしかかった時点でシフトレバーをマニュアルモードに入れ、M2とM3を切り替えながら登る。最大トルク発生回転数は3、800rpmなので、エンジンが唸りを上げ始める直前まで回しておくとうまい。コーナリングでは非常に安定した、弱アンダーのマナーを見せる。多少オーバースピードでコーナーに進入しても、破綻する気配すら感じさせない。ステアリング操作に対応し、狙ったラインをきれ

いにトレースしてくれる。そしてなによりも乗り心地が良い。ハリアーでワインディングを攻める人はいないと思うが、走り慣れない道で予想以上にコーナーのRがきつかったり、目の前に突然コーナーが現れてヒヤッとした経験をお持ちの方は多いはず。そんなシチュエーションでは、プラットフォームとボディの剛性やバランス、各種制御機能の的確な動作がものを言う。その点で世界最高級の技術を投入されたハリアーには微塵の隙もないと言えるだろう。

なおエクステリアデザインが洗練されているにも関わらず、ラゲッジスペースがとて広いことは明記しておこう。狭み込み防止機能付きのパワーバックドアを開ければ、ファミリーや友人3〜4名の荷物は余裕で搭載できるスペースが広がる。「SUVである」という根本的な部分は一切おろそかにされていないので、日常的なショッピングからロングドライブ、アウトドアレジャーなど、さまざまなシーンで活躍してくれるだろう。

現行型ハリアーも発売から6年を過ぎたが、Style NOIRのような付加価値によって、新たな魅力が創造される。意匠変更、デザイン変更と言葉では簡単に表現しがちだが、エクステリア/インテリアから受ける印象は大きく異なり、それがオーナーのライフスタイルをも表現する存在になり得る。だからクルマは面白い。